

▼第2次栃木市観光基本計画 進捗確認表(令和7年度)

基本目標2 ネットワーク・観光基盤整備		実施スケジュール					内部評価					
基本施策		単位施策	具体的な方策	R5	R6	R7	R8	R9	進捗	内容(取組状況・課題)	コメント	
1	様々な観光モデルルートの設定	テーマ性のある周遊観光モデルルートづくり	テーマ性のあるモデルルートの作成		→				一部着手	いちご・ぶどう等の農産物をテーマとした「とちぎ渡良瀬いちご・フルーツ街道スタンプラリー」や、ふれあいバスをテーマとした「ふれあいバスで行く とちぎの小さな旅」を関係課や近隣自治体と連携して作成した。また、蔵ナビでは5種類のテーマごとのモデルコースを紹介している。作成したモデルルートの利活用を増やすためにどのようにPRするかを検討する必要がある。	・ふれあいバス利用のモデルコース良いと思います。周知の仕方に一工夫必要な？ ・フルーツ街道のスタンプラリーは好評です。 ・フルーツ街道やバス旅企画、モデルコース整備は当社の商品造成に活用可能な有望素材であり、広域連携も高く評価いたします。一方で、予約專線や受入体制、造成済商品の販売運動が不十分で、送客拡大への即効性は限定的です。当社としては販売可能な形への磨き上げと連携強化を期待いたします。 ・推しモデルルート、推し観光スポットのランキングイベント等参加型の催しを継続的に実施し現状の把握と新たな希望・要望を収集。	
			モデルルートと連動したイベント等の開催			→				一部着手	栃木市散策ガイドアプリ「蔵ミューゼ」に新たにスタンプラリー機能を付け、モデルルートの周遊を促すスタンプラリーを開催。令和7年度には、「蔵ミューゼ」を活用したデジタルスタンプラリーを3回開催し、街中の周遊を促した。今後は、さらなる街中周遊を促すため、モデルルートを活用した謎解きイベントを開催する予定である。また、デジタルスタンプラリーにおいて、街中だけでなく、広域を周遊してもらう仕組みを検討していく。	・「蔵ミューゼ」の機能拡充やデジタルスタンプラリーの実施は周遊促進の仕組みとして評価でき、個人客の回遊性向上に寄与しております。一方で、団体・募集型商品との連動や収益化導線が弱く、送客拡大への波及は限定的です。今後は謎解き企画を含め旅行商品化を見据えた設計強化を期待いたします。
2	地域をつなぐ観光ネットワークの形成	二次交通の充実化	交通事業者と連携した観光交通網の整備の検討		→				一部着手	近隣市のコミュニティバスの市内乗り入れや、ふれあいバスの市外乗り入れがある。特にふれあいバスは佐野イオンや佐野アウトレットまで巡行しているため、周辺のみかも山東エリアへの誘客を促していきたい。また、すでに導入されているシェアサイクル・レンタサイクル事業について、駅前やホームページ等で周知することで観光客の利用促進を図る。	・シェアサイクル、レンタサイクルの利用状況が知りたいです。 ・期間限定のふれあいバスの沿線の検討。花見、フルーツ狩り等市外利用者の“足”としての活用も利用向上へつながるのではないかと。 ・シェアサイクルは周知すれば利用数ももっと増える事業だと感じる。栃木市散策の利便性の向上に必要な事業だと思うので、上手く周知できるといい。 ・各交通手段を横断的にハブ化(メイン、サテライトハブ等)し、利便性と柔軟性の高い手段を整備する。	
			サイクリングモデルルート作成		→				着手	市で作成した「栃木市サイクリングマップ」や、県・近隣自治体と連携して作成した、県南地域の8市町を通過するサイクリングモデルルートである「ワタラセ8」の更なる内容の充実を図る。また、複数の自治体を横断するルートの利用を促進するために、近隣自治体との連携に努める。令和7年度には、宇都宮ブリッツェンを運営するサイクルスポーツマネージメント株式会社にサイクルパークなどを活用する事業を委託し、ジュニア用ロードバイクやBMXの体験会や、太平山や渡良瀬遊水地でライドイベントを実施した。今後は、ライドイベントに観光施設や特産品を絡めていくことを検討している。	・安全性確保への取組強化とアピールを図る	
			観光施設及び観光資源間の連携	観光施設間の連携強化	→					着手	栃木地域内の資料館等が連携し施設間で周遊できるよう栃木市記念館等共通券を発行した。みかも山東エリアの観光施設や飲食店間で連携し、みかも山東エリア連絡会議を開催し、合同イベントの企画や相互にパンフレットの提供を行った。新たな施設間連携の強化を図っていく必要がある。栃木市記念館等共通券の周知の強化を図るため、令和6年度にミニのぼり旗、令和7年度にチラシを製作し、各所へ掲出した。また、みかも山東エリア連絡会議では、5施設を周遊するスタンプラリーを実施し、多くの人が訪れた。	・エリアごとの観光周遊を楽しんでもらってから、さらに“欲ばりコース”として市内全域を回遊するプランの構築、それぞれのエリアの得意とする季節をPRし、限定商品の開発・グッズ作成などもまた来たくなるきっかけづくりになるのでは。 ・栃木市内で周遊を促す試みは必要だと感じているのでとても良い。
3	旅行者、交通事業者との連携	旅行企画の商品の充実と新規開発	旅行商品開発の推進		→				一部着手	観光資源をPRするために市内外の観光事業者等を対象にモニターツアーを開催する。令和7年度は観光協会に委託し、ヨシ焼き見学ツアーを実施した。なお、悪天候によりヨシ焼きは延期となり見られなかった。また、観光協会が主体で、観光庁の補助金を活用した蔵の活用をテーマとしたモニターツアーも実施した。令和8年度以降も観光協会と連携し、ツアーの開発・造成を進めて行く。	・他地区ではできないモニターツアーを発掘し開催(爆破・ヨシ焼きツアー・バルーン等) ・日帰りバスツアーの企画は半年前から集客が始まる。バスの移動距離の問題から近隣でいかに満足度が上がるかが決め手になる。ここでしか体験できない、味わえない、貸切・参加型イベント等特化した内容が必要。 ・栃木市、國學院大學観光まちづくり学部、東武鉄道、当社(東武トップツアーズ)での4者共同研究による持続可能な「観光まちづくり」における3か年の事業が終了し、蔵の利活用を中心とした様々な見地からの提言が生まれました。この研究提言をもとに当社としても旅行会社としての立場からさらに栃木市の観光振興に寄与する事業を展開できればと思います。	
			広告媒体の活用	交通関連施設等での観光PR		→				着手	令和7年1月から運行開始した「Berry ² Happy Train」ではラッピング広告により観光PRをした。浅草駅にインバウンド冊子を佐野SAへ総合パンフレットを配架した。また、「令和8年とちぎ秋まつり」のポスターを駅の掲示板上に掲示し、周知した。令和8年度以降も引き続き、各駅に協力をお願いし、周知に努める。	・鉄道イベントは盛り上がる。今後も参加したい。 ・令和8年とちぎ秋まつりを主体としたPRについては、インバウンドの取り込みも視野に入れ、ポスター提出等について、鉄道事業者としても協力させていただきたい。 ・当社と東武鉄道との連携を深め、栃木市の観光振興にコミットできればと思います。 ・ラッピング電車はSNSでも注目されるので、とてもよいPRだと思う。浅草駅、佐野SAは栃木市への玄関口となる重要な拠点なので効果が高そう。
			鉄道会社や高速道路運営会社との連携	主要交通施設でのキャンペーンの実施		→				着手	令和6年度に3回大宮駅で観光PRイベントに出展した。また、北千住駅や川越駅において果実狩りやイベントのPRを行った。今後も観光PRに有効な場所で観光キャンペーンを実施し、本市の魅力を発信する。令和7年度に北千住駅でぶどう狩りのPRを行った。また、大宮駅で観光PRイベントに出展し、果物狩りの割引券を配布した。今後は観光キャンペーンで配布した割引券の使用率を把握し、効果測定も行って行く。	・早いタイミングから、果実狩りやとちぎ秋まつりの観光キャンペーンとして、浅草、北千住、新越谷、池袋等のジャンクション駅を中心としたPRキャラバン等をご検討いただきたい。 ・3年連続で栃木県の観光PR事業を実施しています。今年度も栃木県の観光PR事業がとうきょうスカイツリーで実施予定です。
4	観光案内所等の整備	観光案内所の充実・機能強化	おすすめプラン・モデルルートの作成		→				一部着手	栃木市観光協会では16種類、「山車会館」で3種類、栃木市観光資源データベース「蔵ナビ!」で5種類のモデルコースを紹介している。		
		観光サービスポイントの設置	観光サービスポイントの設置		→				一部着手	イベントチラシやパンフレット等をコンビニエンスストア・スーパーマーケット・大型商業施設等に設置し、観光情報の発信を行った。また、るぶやとちぎタウン誌もみやや等に栃木市の観光情報を提供した。今後も引き続き、事業者と連携し、ニーズに合った情報を発信していく。		
5	快適な空間形成の促進	駐車場やトイレ等の観光利便施設の充実	観光客の利便性向上のための施設整備		→				一部着手	令和7年度は清水寺憩の森駐車場の白線の修繕及びびかかしの里のトイレの修繕を行った。また、警察署跡地利活用として、観光交流施設と駐車場を整備していく。	・岩舟駅からとちぎシティFCのグラウンドまでの道路が暗く、路側帯もないので非常に危険。 ・トイレの改修は問題。カメラの設置も。	
		観光施設等のバリアフリー・ユニバーサルデザインの促進	観光施設等のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化促進		→				一部着手	コエド市場に車いすを設置し、また、栃木駅及び新栃木駅周辺地域のバリアフリーマップを更新するとともに、栃木市観光協会のホームページに掲載し周知を図った。施設を改修する際にバリアフリー・ユニバーサルデザインを意識した改修をする必要がある。	・非常に重要な視点だと思います。視覚障害者、聴覚障害者らと実際に街を歩き、課題を発見、改善していくのも良いと思います。 ・印刷物等のユニバーサルフォント及び配色等適用も合わせて実施する。	
		安全安心な観光のための環境整備	安心安全マニュアルの作成		→				一部着手	山車会館やコエド市場にて指定管理者による緊急対応マニュアルの作成及び災害時のハザードマップによる避難誘導を促せるようマニュアルを作成を検討する。	・現状はそうしたマニュアルはないのでしょうか？ ・各方面への情報発信を行い、各施設への展開を図る。	
6	移動環境の整備・充実	分かりやすい観光案内標識の整備	観光案内標識の充実		→				着手	英語及び中国語に対応している栃木市散策ガイドアプリ「蔵ミューゼ」の情報更新を行ったほか、スタンプラリー機能を追加しアプリの充実を図った。また、各所の観光案内看板を随時チェックし、情報の更新を行った。既存の観光案内看板の更新の際に多言語化やビクトグラムやイラストを活用したデザインの使用を検討する。	・蔵ミューゼの利用者数の推移などもぜひ情報発信してもらいたいです。	
		「ふれあいバス」の観光への利活用	「ふれあいバス」を活用したおすすめプラン・モデルルートの作成		→				一部着手	「ふれあいバスで行く(とちぎの小さな旅)」として、バスルート別に4種類のモデルコースを紹介している。今後はふれあいバスのルートに合わせたコースの追加・更新に努める。	・期間限定のふれあいバスの沿線の検討。花見、フルーツ狩り等市外利用者の“足”としての活用も利用向上へつながるのではないかと。	